

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1202013

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 芸術・文化の振興	事業優先度	B	
単位施策	2 芸術・文化活動の促進	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	陶芸推進事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	工房利用者への支援及び年間利用者の増		#N/A	
事業目標	焼成利用者への支援及び年間利用者600人	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容
計 画 内 容	○陶芸文化の推進 ・焼成利用者への支援 ・陶芸教室等の開催	焼成利用者への支援 年間利用者(600人)	焼成利用者への支援 年間利用者(600人)	焼成利用者への支援 年間利用者(600人)	焼成利用者への支援 年間利用者(600人)	焼成利用者への支援 年間利用者(600人)
計 画 事 業 費	事業費(千円)	3,800	760	760	760	760
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	3,800	760	760	760	760
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,919	772	726	750	779
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	3,919	772	726	750	779
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 【評価・実績】	(実施内容等) 焼成利用者への支援 年間利用者(600人) 20年度利用者:510名 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) 焼成利用者への支援 年間利用者(600人) 21年度利用者:509名 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) 焼成利用者への支援 年間利用者(600人) 22年度利用者:412名 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) 焼成利用者への支援 年間利用者(600人) 23年度利用者:424名 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等) 焼成利用者への支援 年間利用者(600人) 24年度利用者:568名 ※前年度評価結果 A—継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値 利用者600人	利用者600人	利用者600人	利用者600人	利用者600人
		年度達成率 102%	96%	99%	103%	117%
		全体達成率 20%	39%	59%	80%	103%
		事業進捗状況 ☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆

事業名	陶芸推進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	生涯教育係長	佐藤 公輔

平成24年度実施
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	年間利用者数
【抱える課題やニーズは】	陶芸愛好者による自立した活動と活動意欲の促進を図る	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	陶芸工房管理人体制の現状維持と文化の伝承活動と作陶技術の向上	①	年間利用者数
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	陶芸文化の継続と文化的な活動の活性化とともに生涯学習の支援を行う		目標年度 平成24年度 目標値 600人 実績値 568人 達成度 94.7%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	陶芸活動の推進	産業観光まつりへの作品出店及び町民文化祭への作品出店並びに成人者記念品の作製	
	管理人配置	陶芸愛好者への指導(3名配置、週3日間)	
		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 #DIV/0!%

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	芸術文化の取組として陶芸事業も根付いており、生涯学習支援の面から事業の実施は必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	管理体制と愛好者への指導などが継続的に行われるなど、町イベントへの出品及び成人者記念品の作製などをとおして普及推進に努めている。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由	計画どおりの開設状況で、自主的な運営や指導体制が定着し、作陶技術も向上している。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

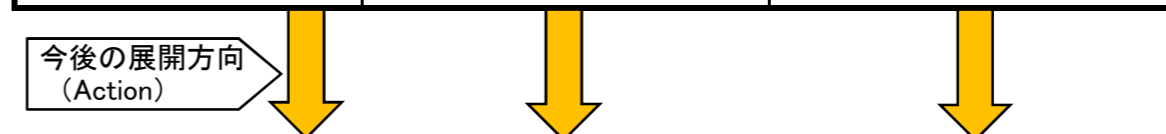
公平	判断の理由	施設の維持管理については町が行い、陶芸活動に係る経費(燃料、材料等)は利用者負担で活動を行っている。
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
生涯学習の観点に立った、社会教育の重要施策であり、陶芸推進の振興・発展を図るうえで、計画どおり事業を進めることができた。		



継続/現状維持		
愛好者に沿った指導や安全対策の維持管理が可能であることから、現状の範囲内で支援しつつ、自主的な活動意欲の促進を図る。		

※展開方向の区分
 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 ○終了 ○休止 ○廃止